

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学物質の名称 品番	反応剤 メタ500 260-W 110g 261-W 160g
会社名	ホワイトプロダクト株式会社
住所	東京都港区芝浦3-14-17
担当部門	研究開発室
電話番号	03-3452-0231
FAX番号	03-3454-0253
メールアドレス	info@white-bear.jp
緊急連絡先	03-3452-0231
推奨用途及び使用上の制限	チェーフィン500専用反応剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性 引火性液体	区分 1
健康に対する有害性 急性毒性(経口)	区分 2
急性毒性(吸入・蒸気)	区分 3
眼に対する重篤な損傷 ／眼刺激性	区分 2A
生殖毒性	区分 1
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分 1 中枢神経系、吸入、呼吸器 区分 3 気道刺激性、麻酔作用
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	区分 1 中枢神経系、視覚器、吸入、呼吸器 区分 2 経口、肝臓、造血系

※記載の無いものは「分類対象外」「分類できない」

ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

- ・ 極めて引火性の高い液体および蒸気
- ・ 飲み込むと生命に危険
- ・ 吸入すると有毒
- ・ 強い眼刺激
- ・ 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
- ・ ばく露により中枢神経系、吸入、呼吸器の障害
- ・ 呼吸器への刺激のおそれ
- ・ 眠気またはめまいのおそれ
- ・ 長期にわたる、または反復ばく露により＜中枢神経系・視覚器・吸入・呼吸器＞の障害
- ・ 長期にわたる、または反復ばく露により＜経口・肝臓・造血系＞の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】

- ・ 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。

安全データシート

- ・ 容器を密閉しておくこと。
- ・ 容器を接地すること/アースをとること。
- ・ 防爆型の電気機器/換気装置/照明器具などを使用すること。
- ・ 火花を発生させない工具を使用すること。
- ・ 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・ 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- ・ 取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・ この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・ 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・ 屋外または歓喜の良い場所でのみ使用すること。
- ・ 使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・ 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

【応急措置】

- ・ 皮膚にかかった場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
- ・ 皮膚を流水/シャワーで洗うこと
- ・ 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
- ・ 口をすすぐこと。
- ・ 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 医師に連絡すること。
- ・ 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。
- ・ ばく露またはばく露の懸念がある場合は、医師に連絡すること。
- ・ 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

【保管】

- ・ 換気の良いところに保管すること。涼しいところに置くこと。
- ・ 施錠して保管すること。
- ・ 容器を密閉しておくこと。
- ・ 施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・ 内容物/容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を得た専門の産業廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学品・混合物の区別 : 混合物

成分及び含有量

化学名/一般名	含有量(%)	CAS NO.	化審法	安衛法	PRTR法
メタノール	85~95	67-56-1	2-201	36	非該当
増粘剤	1~2	非公開	非該当	非該当	非該当
水分	4~5	7732-18-5	非該当	非該当	非該当

化審法 官報公示整理番号(化審法)

労働安全衛生法 表示物質 : 施行令第18条 名称を表示すべき有害物

通知物質 : 法第57条の2 施行令第18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物

PRTR法 : 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律

4. 応急措置

吸入した場合

- ・ 吸入をして気分が悪くなった場合は、直ちに使用を中止し、空気の新鮮な場所へ移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息を取ること。気分が回復しない場合は、医師の診察を受けること。
- ・ 眠気やめまいの症状が出た場合は、直ちに使用を中止し、空気の新鮮な場所へ移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息を取ること。気分が回復しない場合は、医師の診察を受けること。
- ・ 呼吸していて嘔吐がある場合は、頭を横向きにする。
- ・ 呼吸が弱い場合は、人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・ 呼吸が止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保したうえで人工呼吸を行う。

安全データシート

- ・ 意識の無い場合は、何も与えてはならない。
 - ・ 吸入の症状が遅れて出る事があるので注意する。
- 皮膚に付着した場合
- ・ 毒性、刺激性はほとんどないが、液が付着した場合は下記のような処置を行う。
 - ・ 直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着したところを良く洗うこと。
 - ・ 衣類等に付着した場合は脱いで、皮膚に付着した部分を石鹼でよく洗うこと。
 - ・ この製品は引火性なので、火気に注意して処置すること。
- 眼に入った場合
- ・ 清浄な流水で15分以上洗眼すること。洗眼の際はまぶたを指で開いて眼球、まぶたの隅々まで水がよくいきわたるように注意深く洗浄する。
 - ・ コンタクトレンズを装着している場合は、固着していない限り取り除いて洗浄を続ける。
 - ・ 激しい痛みや眼の刺激が続く場合は、医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合
- ・ 毒性が非常に高いので、可能であれば直ちに吐き出させて、医師の診察を受けること。
 - ・ 呼吸が止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保したうえで人工呼吸を行うが、その前に口中に残っているものがあれば、拭うなどしてよく除去する。
 - ・ 直ちに口中を水で洗浄すること。
 - ・ 直ちに医師の診察を受けること。
 - ・ 無理に吐かせないこと。
 - ・ 子供等が飲み込んだ懸念がある場合は、直ちに医師の診察を受けること。
- ・ 必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。
 - ・ 医師に製品ラベル、もしくはMSDSを見せること。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 初期火災には、粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。
大規模火災の場合には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。
- 使ってはならない消火剤 : 水を消火に用いてはならない。
冷却の目的で霧状水を用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。
- 特有の危険有害性 : 燃焼ガスには一酸化炭素のほか、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際は煙を吸入しないように注意する。
- 特有の消化方法 : 消火作業は、可能な限り風上から行う。
関係者以外は、安全な場所に退去させる。
周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
火災発生場所に周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
周囲の設備等の輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
消化の為の放水等により、環境に影響を及ぼす物資が流出しないよう、適切な措置を行う。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動では、適切な保護具(手袋、メガネ、マスク)を着用する。
消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項
保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁

安全データシート

止する。

作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

こぼれた場所は滑りやすいため注意する。

多量の場合、人を安全に退避させる。

- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- 回収・中和 : 有害でなければ火気、換気等に十分注意して蒸発、拡散させる。または、散水して蒸発を促進させてもよい。
回収後の少量の残留分は、土砂またはおがくず等に吸収させる。
付着物、廃棄物等は、関係法規に基づいて処理する。
- 二次災害の防止策 : 漏出時は、事故の未然防止と拡散防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに、消火剤を準備する。
火花を発生しない、安全な用具を使用する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策

- : 使用前に取り扱い説明書を入手すること。
製品記載の使用上の注意をよく読み、用途以外に使用しないこと。
全ての安全注意をよく読み、理解するまで取り扱わないこと。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。
容器を接地(アース)すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
火花を発生しない安全な工具を使用すること。
防爆型の電気機器(換気装置、照明器具等)を使用すること。
漏れ、あふれ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
粉塵、煙、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取り扱いは、屋外の換気の良い場所で行う。
取り扱い中は飲食、喫煙を行ってはならない。
取り扱いの都度、容器を密閉する。
取り扱い後は手を良く洗うこと。

保管

安全な保管条件

- : 製品記載の保管条件をよく読み、適切に保管すること。
容器を密栓すること。
涼しいところ、換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

- : 蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
屋内で使用する場合は、局所排気装置を設置する。
屋内は全体に換気する。換気の悪い場所および蒸気の高発生量の多い場所には局所排気装置を設置する。

管理濃度

化学名/一般名	管理濃度	日本産学衛生学会	ACGIH	
			TLV-TWA	STEL
メタノール	200ppm	最大経濃度200ppm 260g/m ³ 皮	200ppm skin;BEI	250ppm skin;BEI

保護具

呼吸器用保護具

- : 保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク(有機ガス用)を使用する。

安全データシート

手の保護具	: 保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を使用する。
眼の保護具	: 必要に応じて保護眼鏡を使用する。
皮膚及び身体の保護具	: 必要に応じて保護前掛け、保護衣等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	
物理的状态/形状	: ペースト状
色	: 淡緑色
臭い	: アルコール臭
沸点	: 65°C以上
発火点	: 385°C(メタノール)
引火点	: 11.1°C(メタノール)
爆発範囲	: 上限 36.0vol% 下限 6.7vol%(メタノール)
比重	: 0.75~0.80(25°C)
溶解度	: 水に易溶

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	: 常温で安定
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発をもたらす。
避けるべき条件	: 加熱、熱源、裸火 強酸化剤との接触を避ける。
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な生成物	: 特になし

11. 有害性情報

製品としての有害性情報 : データなし

※ 個々の成分の有害性情報

※ 記載の無いものはGHSカットオフ値未満もしくは知見なし、データなしの成分

(メタノール100%としての有害性情報)

急性毒性	: 経口(ヒト)LDLo: 143 mg/kg 経口(男性)LDLo: 6422 mg/kg 経口(ヒト)TDLo: 3429 mg/kg 経口(ラット)LD50: 5628 mg/kg 経皮(ウサギ)LD50: 15800 mg/kg 吸入(ヒト)TCLo: 86000 mg/m ³ 吸入(ヒト)TCLo: 300 ppm 吸入(ラット)LC50: 64000 ppm/4h
皮膚腐食性・刺激性	: 皮膚(ウサギ): 20 mg/24 h- 中程度 眼(ウサギ): 100 mg/24h- 中程度 眼(ウサギ): 40 mg- 中程度 長期暴露もしくは繰り返しの暴露により、皮膚刺激を引き起こすことがある。皮膚に接触したとき、発赤、腫れ、小疱および皮膚の剥脱/硬化を引き起こすことがある。
眼に対する重篤な損傷 /眼刺激性	: EHC、DFGOT及びPATTYに、ウサギを用いた試験で軽度ないし中程度の眼刺激性が認められたとの記述があるが、回復性については明らかな記述がないこと及びヒトで角膜の障害、強度の結膜浮腫が一過性に認められている。強い眼刺激(区分2)
生殖毒性	: 妊娠ラット及びマウスを用いた経口及び吸入暴露試験で胎児奇形または胎児死亡の増加が認められたとの記述があるが、信頼性のあるヒト暴露例のデータがない。雄ラットでテストステロン濃度の低下または精巣変性が見られたとの記述があるが、これとは逆に、雄の生殖器系への影響は認められない雄の生殖能力に対する影響は明らかではない。生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い(区分1B)

安全データシート

特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	:	ヒトで急性経口または吸入暴露により中枢神経系の抑制及び視覚器障害が見られるとの記述や、ヒト暴露例で代謝性アシドーシスがみられるとの記述から、標的臓器は中枢神経系、視覚器及び全身毒性とした。中枢神経系、視覚器、全身毒性の障害(区分1) 過剰暴露の徴候及び症状は、眠気及び意識喪失等の中枢神経系作用の事がある。眠気またはめまいのおそれ(区分3)麻酔作用を有する。呼吸器への刺激のおそれ(区分3)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	:	ヒトの長期暴露例で中枢神経系の抑制及び視覚器障害が見られたとの記述から、標的臓器は中枢神経系及び視覚器とした。長期または反復暴露による中枢神経系、視覚器の障害(区分1)
吸引性呼吸器有害性	:	

12. 環境衛生情報

生体毒性	:	データなし
残留性・分解性	:	データなし
生体蓄積性	:	データなし
土壌中の移動性	:	データなし

※ 個々の成分の有害性情報

※ 記載の無いものはGHSカットオフ値未満もしくは知見なし、データなしの成分(メタノール100%としての有害性情報)

水生環境有害性・急性	:	甲殻類 ブラインシュリンプ LC50 909.73mg/L/24H
水生環境有害性・長期間	:	難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10 ⁶ mg/L ⁵⁰)、急性毒性が低い。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	:	内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
-------	---	--

14. 輸送上の注意

国際規制		
海上規制情報	:	IMOの規定に従う
陸上規制情報	:	ICAO/IATAの規定に従う
国連分類	:	クラス 4.1
国連番号	:	2926 (FLAMMABLE SOLID)
容器等級	:	II

国内規制

陸上輸送	:	消防法の規定に従う。
海上輸送	:	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	:	航空法の規定に従う。

緊急時応急措置指針番号 (容器イエローカード指針番号)	:	134
--------------------------------	---	-----

積載方法	:	運搬時の積み重ね高さは3m以下
------	---	-----------------

混載禁止	:	第1類及び第6類の危険物との混載禁止。
------	---	---------------------

輸送の特定の安全対策及び条件	:	転落し、または危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 食糧や飼料と一緒に輸送してはならない。 火気厳禁。 荷崩れ防止を確実にを行う。 該当法令に従い包装、表示、輸送を行う。 直射日光を避ける。 水ぬれ厳禁。
----------------	---	--

反応剤 メタ500
 ホワイトプロダクト株式会社
 作成日 2008年12月
 改定日 2013年5月

安全データシート

横積み厳禁。
 夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。

15. 適用法令

消防法	: 危険物 第二類引火性固体 危険等級Ⅲ
労働安全衛生法	: 表示物質 含有する。 : 通知物質 含有しない。 : 有規則 第二種有機溶剤を含有する。 施行令別表第6の2 有機溶剤中毒予防規則 第1条第1項第4号)
労働基準法	: 危険物 引火性のもの (施行令別表第1第4号) : 疫病化学物質 メタノール (法第75条2項 施行規則第35条別表第1の2第4号)
特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進の改善の促進に関する法(PRTR法)	: 第1種指定化学物質 : 第2種指定化学物質
毒物及び劇物取締法	: 該当成分は含有するが、混合物の為非該当
船舶安全法	: 引火性液体類 メタノール (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	: 引火性液体 メタノール (施行規則第194条危険物告示別表第1)

16. その他情報

参考文献

原料メーカー発行の製品安全データシート
 GHS分類結果データベース(独立行政法人製品評価技術基盤機構HP)
 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP
 GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・データシート作成指針(日本化学工業協会)
 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
 JISA7253(2012)

※ 注意

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、取扱事業者提供されるものです。取り扱う事業者はこれを参考として、自らの責任において個々の取り扱いなどの実態に応じた処置を講ずることが必要であることを理解したうえで活用されるよう、お願い致します。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。